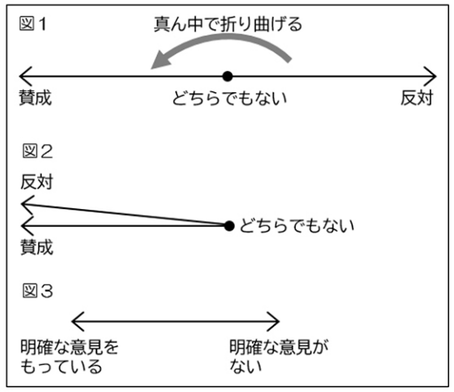
高附学校だより
藤紫（ふじむらさき）
令和2年度　第５号
長崎県立諫早高等学校・附属中学校
〒854-0014　諫早市東小路町1番7号
TEL 0957-22-1222 FAX 0957-22-5104
http://www.news.ed.jp/isahaya-h/
令和2年 12月24日発行　No.１６３

「見方」を変えて、前へすすむ

中学校　副校長　田中　秀明

・「成功」の反意語は「失敗」である
・「賛成」の反意語は「反対」である
・「好き」の反意語は「嫌い」である
これらは小学生にもわかるような「常識」に見えます。
本当にそうでしょうか？
（細谷功・ヨシタケシンスケ　『柔らかい頭の作り方　身の回りの見えない構造を解明する』による）

これは、今年度の全国学力調査中学校国語の問題2の課題文の冒頭部分です。例に挙げた反意語について「本当にそうでしょうか？」と読み手に問いかけています。「間違いなく『常識』だ」と言いたいところですが、そうではない見方ができるのだと続くことが想像できます。この文章で示されている見方で、「賛成」と「反対」を分析すると次のようになります。



①「賛成」と「反対」は、一般には何らかの問題について「両極」に位置付けられる（図１）。
②視点を変えるため、この軸を真ん中から折り曲げると、左端に「賛成」と「反対」が並び、右端には「賛成でも反対でもない」が位置付けられる（図２）。
③「賛成」や「反対」は意見が異なっているが、問題についてよく考えた結果なのだから「明確に自分の意見をもっている」ととらえることができる。一方、「賛成でも反対でもない」は、「自ら明確な意見がない」ととらえられる（図３）。

賛成と反対を両極にあるものととらえているうちは、そこで思考はストップします。しかし、このように見方を変えて賛成と反対も同義だととらえると思考は次の段階に進んでいきます。互いの意見のどの部分が共通していて、どの部分が異なっているのか、徹底的に理解しようとすることで、反対意見が賛成意見に変わることもあるかもしれません。また、賛成と反対の意見が折り合って新しい考えが生まれることも考えられます。

今年は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対応のため、学校での諸活動が例年のやり方ではできない状況が続いています。上の図のように考えると、例年は感染リスクが小さい（安全）に対して、対極は感染リスクが大きい（危険）という位置付けです。これを真ん中で折り曲げて新たな軸として考えると、一方は、対策があるから安全なのであり、危険な状況も対策をとればリスクは小さくなるから、「対策をとって実践する」ととらえることができ、もう一方は、「何の対策もとらずやめる」が位置付けられます。９月の体育大会は、大きな会場に変更したり時間を短縮したりするとともに、生徒が集団演技等でも声を出すことや密接を避ける工夫をして演技を構成するなどして、新たな体育大会を創りあげました。附属中の学習発表会・合唱コンクール、高校の文化祭等も実践するためにはどのように工夫すればよいかという考えのもとで取り組んでいます。このように、柔軟に見方を変えながら諸活動を実践することで前へ進み続けています。

附属中学校創立１０周年・諫早高校創立１１０周年記念Ｙｅａｒが開幕しました。開幕行事で発表されたスローガンは「Ｒｅｓｔａｒｔ～軌跡をたどり、奇跡をつくる～」、そしてシンボルマークには「前へ、上へ進んで、夢を叶える」という意味が込められています。諫早高校・附属中学校は、創立１０・１１０周年を契機とし、コロナ禍で身に付けた前向きで柔軟な見方を発揮し、高い志に向かう力を高めています。

附属中学校創立10周年・諫早高校創立110周年
記念事業開幕行事

１１月１１日、創立周年記念事業開幕行事として、人生の達人セミナー、創立周年記念スローガン及び、シンボルマークの発表が行われました。

人生の達人セミナーでは、諫早市で活躍をされている3名のパネリストの方をお招きし、パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションの運営は２０名を超える生徒からなる講演会チームが担当しました。今回のパネルディスカッションでは、新型コロナウイルス感染症予防のため、体育館と各教室をオンラインでつなぎ、会場を分けて行う分散開催としました。

当日は、パネリストの方のお話を聞いたうえで生徒が選んだ「本音で語る学歴と学力と生きる力」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

Restart～軌跡をたどり、奇跡をつくる～

このスローガンを提案したのは、中学校３年１組　本島悠里さん、高校２年７組　山本芽依さん、１年１組　福本樹さんです。Restartは、「コロナなどでいろいろ大変だったが、気持ちを新たに頑張ろうという気持ち」「コロナウイルス感染拡大によって、休業をやむをえない状態からのスタートだったことを踏まえて、ここから諫高、そして附属中の新しい時代のスタートを切るという意味」が込められています。また、軌跡をたどり、奇跡をつくるは「これまでの軌跡を振り返り、これから奇跡をつくっていこうという思い」が込められています。

このシンボルマークの原案を提案したのは、高校３年７組廣田咲さんです。漢数字の百十と「叶う」という字をかけあわせたデザインになっています。また、矢印はIsahayaのIを担っており、同時に、「未来」「上昇」を表しています。

諫早高校・附属中学校ホームページもCHECK!!
臨時ページ　http://www.news.ed.jp/isahaya-h/
で情報にアクセスできます。